

令和元年6月13日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H01866

研究課題名(和文) 身心変容技法と霊的暴力ー宗教経験における負の感情の浄化のワザに関する総合的研究

研究課題名(英文) Transformation and Spiritual Violence

研究代表者

鎌田 東二 (KAMATA, TOJI)

上智大学・グリーンケア研究所・教授

研究者番号：00233924

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,200,000円

研究成果の概要(和文)：「身心変容技法」がもたらす負の側面の考察を主軸に考察した。例えば、気功修行で言う「入魔」、禅の修行で問題とされる「魔境」、諸宗教で信仰されてきた「悪魔・悪霊」などの観念や経験を含む「霊的暴力」という観点から総合的に研究を進め、研究成果を『身心変容技法シリーズ第1巻 身心変容の科学～瞑想の科学』『同2巻 身心変容のワザ』(ともにサンガ、2017年9月、2018年2月)として出版した。また、2018年9月9日に日本宗教学会で分担研究者5名と共に成果をパネル発表し、同学会誌『宗教研究』に掲載した。本科研の全活動と全成果は研究年報『身心変容技法研究』に掲載し、HP上でPDF全頁公開し社会還元している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「身心変容技法」とは、「身体と心の状態を当事者にとってよりよいと考えられる理想的な状態に切り替え変容・転換させる諸技法」を指すが、オウム真理教事件を始め、その理想や理念とは裏腹に、それが「霊的暴力」(超越的な世界観に裏付けられた破壊性)を引き起こすことがある。「身心の荒廃」が様々な局面で社会問題となっている時代状況下、その負の連鎖から抜け出ていくための宗教的リソースやワザ(技術と知恵)として「身心変容技法」を正当に位置づけるためにも、その負の局面の危険性や問題性を明らかにしつつその応用可能性の道を探ることは喫緊の課題であり宗教研究の責務である

研究成果の概要(英文)：The main points of discussion were the negative aspects brought by the body-mind transformation technique. From the point of view of spiritual violence, including ideas and experiences such as Nyuma to say in Qigong practice, Makyo to be a problem in the practice of Zen, Devils and demons who have been believed in religions Research as a part of the "Science and Technology Transformation Technique Series Vol. 1 Science of Body and Mind Transformation and Change; Science of Meditation" and "The Two Volumes of Body and Mind Transformation and Change" (both Sanga, 2017,2018) Published. Also, on September, 2018, the panel was presented with the results of five panelists at the Japanese Society of Religious Studies, and was published in the journal "Religious Studies". All activities and results of this research institute are published in the research annual report "Study on transformation of mind and body", and all pages of PDF are published on the website for social return.

研究分野：宗教哲学、民俗学

キーワード：身心変容技法 霊的暴力 瞑想 脳神経科学 マインドフルネス 神秘体験 オウム真理教事件 悪

## 1. 研究開始当初の背景

1995年に起きたオウム真理教事件は、宗教教団が孕む「宗教的暴力」をさまざまなレベルで浮彫りにする事件だった。そこで、宗教的な「修行」することが引き起こすさまざまな負の側面を明確に検証・考察することが急務だと考えるに至り、悟りや救済などの理想的状態を実現する目的を持った「身心変容技法」がどのような負の側面を持つかについて、入魔（気功）・魔境（禅）・悪魔（諸宗教）などの観念や経験を含む「霊的暴力」という観点から研究する必要があると考え、「身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究」（基盤研究A:20011年度～2014年度：課題番号2324200）の研究成果を踏まえて本科研を申請した。

## 2. 研究の目的

「身心変容技法」がもたらす負の側面の考察を主軸に、「身心変容技法」を神秘体験、密教、禅、マインドフルネス、気功などの事例的検討と思想的検証を行ない、気功修行で言う「入魔」、禅の修行で問題とされる「魔境」、諸宗教で信仰されてきた「悪魔・悪霊」などの観念や経験を含む「霊的暴力」という観点から研究する。具体的には、キリスト教神秘主義やイスラーム神秘主義（スーフィズム）などの神秘思想における観想やズィクルやセマー、仏教における止観や禅や密教の瞑想、修験道の奥駆けや峰入り、滝行、合気道や気功や太極拳などの各種武道・芸道等々、さまざまな「身心変容技法」の諸相（特色）と構造（文法）と可能性（応用性）と問題点を文献研究・フィールド研究・実験研究・臨床研究の手法により総合的に解明し、特にその負の側面に注意を喚起しつつ、現代を生きる個人が自分に合ったワザを見出し、活力を掘り起こしながらリアルな社会的現実を生き抜いていくことに資する研究成果を社会発信することを目的とした。

## 3. 研究の方法

身体を用いて心を制御したり、ある意識状態に入ることによって身体の解放をもたらしたりする「身心変容技法」に付随して生起する「霊的暴力」の諸相を文献思想研究・実験研究・フィールド研究・臨床研究の研究手法により実証科学的（実験・フィールド・臨床）に分析すると同時に、哲学的・倫理的・思想史的反省を加えて、総合的な検証を進めた考察を進めた。不安や恐怖や悲哀や怒りなどさまざまな「負の感情」を受け止め、見つめ、昇華し解放する「身心変容技法」の諸ワザを解明することで、混迷する現代を身の丈に合った生のヒントを社会発信した。具体的には、宗教学関係の研究者を中心に、哲学・倫理学、美学・芸術学、社会学、臨床心理学、脳神経科学・認知科学の観点と研究成果を取り入れて、年次計画に従い、ほぼ毎月1回「身心変容技法研究会」（4年間で通算40回）とサブ研究会の世阿弥研究会（通算35回）を行ない、学際的に研究し議論した。方法論は、文献研究・思想研究とフィールド研究をベースに、臨床研究と実験研究交錯させ、研究会や国際シンポジウムなどで議論し、それを論文に発表したり、学会発表してさらに論点を精緻にしていくことを試みた。実験研究では京都大学こころの未来研究センターのfMRIを使用し、それを元に、集中瞑想と洞察瞑想との際などを認知神経科学的に検証した。研究成果は随時、本研究プロジェクト専用のホームページ「身心変容技法研究会：<http://waza-sophia.la.coocan.jp/>」や研究年報誌『身心変容技法研究』に公開し、シンポジウムやワークショップや書籍などを通して社会発信ないし社会還元した。

## 4. 研究成果

(1) 通算40回の「身心変容技法研究会」を行ない、その際の発表レジュメや議論（研究問答）を同研究会のHPに公開し、それらを踏まえて年度内に論文化し、『身心変容技法研究』に掲載した。同研究年報は、科研期間の4年間で4冊発行した。A4サイズ3段組のレイアウトと毎号20本以上の論文とシンポジウムの記録などを全て公開し、社会発信・社会還元した。

(2) 加えて、これらの研究成果を『身心変容技法シリーズ第1巻 身心変容の科学～瞑想の科学』『同2巻 身心変容のワザ』（ともにサンガ、2017年9月、2018年2月）として出版し、2018年9月9日に日本宗教学会で分担研究者5名と共に成果をパネル発表し、同学会誌『宗教研究』に掲載した。もちろん、前記(1)に記したように、本科研の全活動と全成果は研究年報

『身心変容技法研究』に掲載し、研究会のHP上でPDF全頁公開し社会還元している。

(3) ここで考察されたテーマは、霊的暴力（オウム真理教事件などの事例）、負の感情、魔、魔境、悪魔、悪霊、物語、シャーマニズム、マインドフルネス、密教、心、演劇、気功、スピリチュアルケア、声およびマントラ（真言）と身心変容技法等々である。また、「身心変容（transformation of body & mind）」、「霊的暴力（spiritual violence）」、「霊的虐待（spiritual abuse）」、「霊的ハラスメント（spiritual harassment）」の概念を明確にし、その負の局面を分析・考察し、修行と儀礼と物語や形態が持つ意味と力について、また負の経験過程を「魔形」と「異形」として図式化し、そこからの軌道修正のありようと総合的に検証した。これらの考察を図式化すれば、次の図1・図2・図3となる。



図1 「身心変容技法」概念図（鎌田東二・鶴岡賀雄・津城寛文他作成）

## 身心変容の道

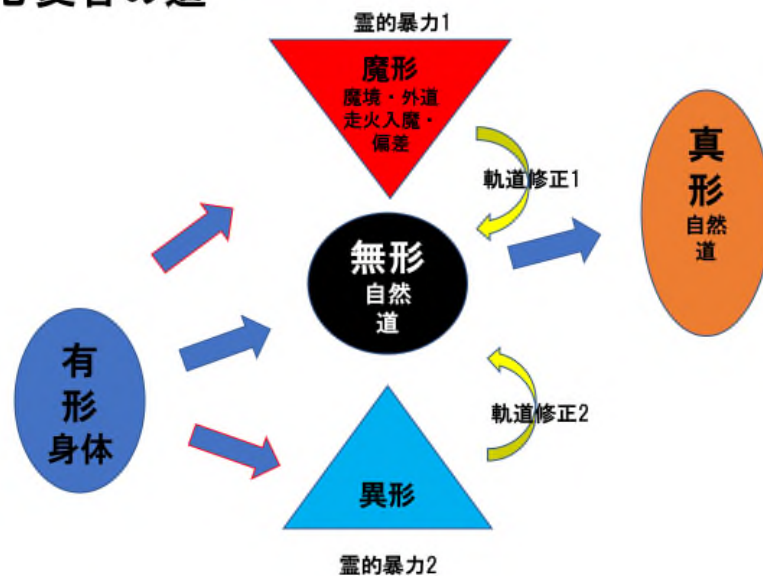


図2 鎌田東二作成

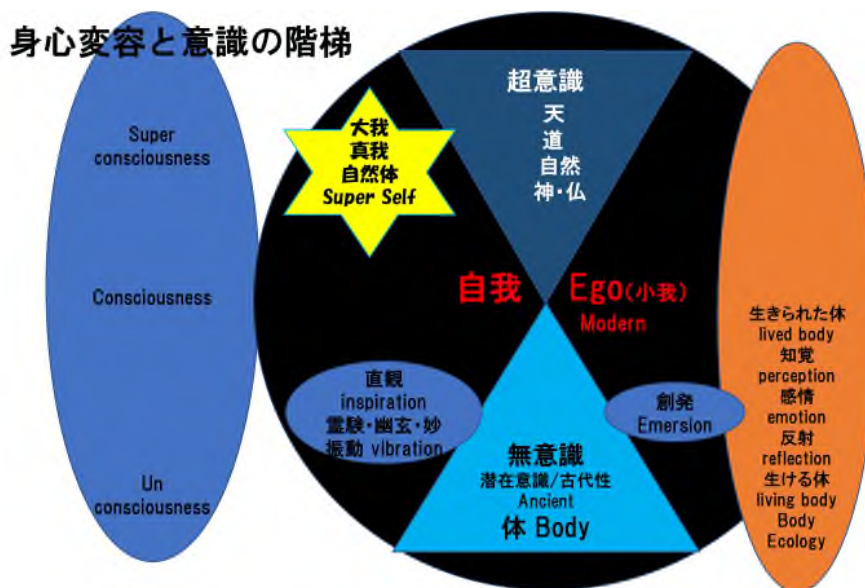


図3 鎌田東二作成

(4) 瞑想を中心とする「身心変容技法」に関する認知神経科学的な研究では、瞑想の熟練者と初心者の脳活動測定、瞑想のトレーニングの効果の測定（注意機能、脳機能）を行い、それぞれの技法によってどのような変化が生じ、その到達点においてはどのような心理状態、脳状態が達成されるのかを探り、論文化した。なお、この方面で研究を進めた研究協力者の藤野正寛（京都大学大学院教育学研究科博士課程修了）は、これらの研究により2019年1月に博士論文「洞察瞑想による情動調整の心理・神経メカニズムの研究」を京都大学大学院教育学研究科に提出し、3月に教育学博士号を取得した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計94件）

- ① 鎌田東二「身心変容技法と霊的暴力3—大本事件とオウム真理教事件を中心に」『身心変容技法研究第8号』査読無、3-28頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ② 島藺進「近代日本の軍の宗教性と身心変容技法—尊王の軍人・乃木希典と禅」『身心変容技法研究第8号』査読無、29-37頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ③ 鶴岡賀雄「身心変容のものがたりとしての『霊の讃歌』」『身心変容技法研究第8号』査読無、131-143頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ④ 井上ウイマラ「マインドフルネスが説かれた歴史的背景と霊的暴力に関する一考察」『身心変容技法研究第8号』査読無、38-45頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ⑤ 河合俊雄「身心変容技法における決定・未決定の緊張関係と逆説—心理療法と現代の意識の関わりから」『身心変容技法研究第8号』査読無、205-210頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ⑥ 倉島哲「モース「身体技法論」における負の感情の抑制」『身心変容技法研究第8号』査読無、94-100頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ⑦ 永澤哲「能力増強・慈悲・魔」『身心変容技法研究第8号』査読無、46-50頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ⑧ 奥井遼「わがが跳躍するときフランス現代サーカス学校的一幕より」『身心変容技法研究第4号』査読無、101-108頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ⑨ 津城寛文「身心変容における陶酔と覚醒」『身心変容技法研究第8号』査読無、211-217頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊
- ⑩ 野村理朗「「無心」の心理学—科学の俎上からいかにして問うのか」『身心変容技法研究第8号』査読無、243-251頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊

- ⑪ 稲葉俊郎「医学と催眠の歴史から見る身心変容」『身心変容技法研究第8号』査読無、257-267頁、上智大学グリーンケア研究所、2019年3月刊  
他83件

〔学会発表〕(計13件)

- ① 鎌田東二「身心変容技法と霊的暴力の問題ーオウム真理教事件を踏まえて」日本宗教学会第77回学術大会パネル発表、2018年9月9日、大谷大学  
② 鎌田東二「身心変容技法としてのスポーツと宗教」日本体育スポーツ哲学会第40回大会招待講演、2018年9月1日、山梨大学  
③ 鶴岡賀雄「キリスト教における身心変容技法と霊的暴力」日本宗教学会第77回学術大会パネル発表、2018年9月9日、大谷大学  
④ 島藺進「近代日本の宗教における身心変容技法と霊的暴力」日本宗教学会第77回学術大会パネル発表、2018年9月9日、大谷大学  
⑤ 井上ウイマラ「テラワード仏教における身心変容技法と霊的暴力」日本宗教学会第77回学術大会パネル発表、2018年9月9日、大谷大学  
⑥ 永澤哲「チベット密教における身心変容技法と霊的暴力」日本宗教学会第77回学術大会パネル発表、2018年9月9日、大谷大学  
他7件

〔図書〕(計26件)

- ① 鎌田東二他共著『天河大辨財天社の宇宙～神道の未来へ』春秋社、240頁、2018年7月  
② 鎌田東二編著『身心変容技法シリーズ② 身心変容のワザ～技法と伝承』サンガ、428頁、2018年2月  
③ 鎌田東二編著『身心変容の科学～瞑想の脳科学』サンガ、438頁、2017年10月  
④ 鎌田東二『言霊の思想』青土社、448頁、2017年6月  
⑤ 鎌田東二『日本人は死んだらどこへ行くのか』PHP研究所、328頁、2017年5月  
⑥ 鎌田東二企画・編著『講座スピリチュアル学 第7巻 スピリチュアリティと宗教』BNP、277頁、2016年8月  
⑦ 鎌田東二『世阿弥ー身心変容技法の思想』青土社、347頁、2016年4月  
他19件

〔その他〕

ホームページ

身心変容技法研究会

<http://waza-sophia.la.coocan.jp/>

## 6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：島藺 進 ローマ字氏名：SHIMAZONO Susumu

所属研究機関名：上智大学 部局名：グリーンケア研究所

職名：教授

研究者番号(8桁)：20143620

研究分担者氏名：河合 俊雄 ローマ字氏名：KAWAI Toshiro

所属研究機関名：京都大学 部局名：こころの未来研究センター

職名：教授

研究者番号(8桁)：30234008

研究分担者氏名：鶴岡 賀雄 ローマ字氏名：TSURUOKA Yoshio

所属研究機関名：東京大学 部局名：人文社会学研究科

職名：教授

研究者番号(8桁)：60180056

研究分担者氏名：津城 寛文 ローマ字氏名：TSUSHIRO Hirohumi  
所属研究機関名：筑波大学 部局名：人文社会学研究科  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：30212054

研究分担者氏名：井上 松永（ウイマラ） ローマ字氏名：INOUE Matsunaga  
所属研究機関名：高野山大学 部局名：文学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：40421292

研究分担者氏名：倉島 哲 ローマ字氏名：KURASHIMA Akira  
所属研究機関名：関西学院大学 部局名：社会学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：70378884

研究分担者氏名：永澤 哲 ローマ字氏名：NAGASAWA Tetsu  
所属研究機関名：京都文教大学 部局名：総合社会学部  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：40388210

研究分担者氏名：野村 理朗 ローマ字氏名：NOMURA Michio  
所属研究機関名：京都大学 部局名：教育学研究科  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：60399011

研究分担者氏名：稲葉 俊郎 ローマ字氏名：INABA Toshiro  
所属研究機関名：東京大学 部局名：医学部附属病院  
職名：助教  
研究者番号（8桁）：80747832

研究分担者氏名：古谷 寛治 ローマ字氏名：FURUYA Kanji  
所属研究機関名：京都大学 部局名：生命科学研究所  
職名：講師  
研究者番号（8桁）：90455204

研究分担者氏名：奥井 遼 ローマ字氏名：OKUI Haruka  
所属研究機関名：同志社大学 部局名：社会学部  
職名：助教  
研究者番号（8桁）：10636054